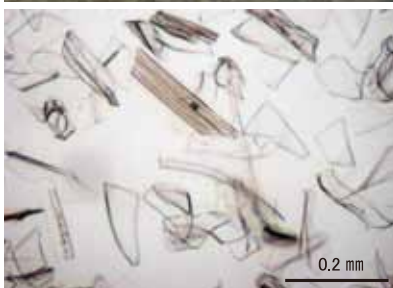


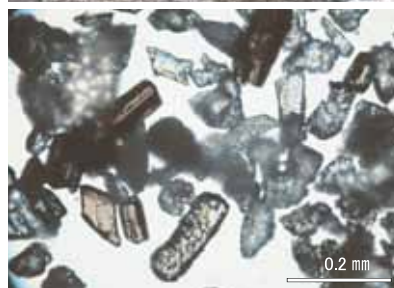
京都市内の火山灰

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



1 中京区壬生坊城町 K-Ah 火山灰



2 左京区岡崎天王町 Uh 火山灰



3 東山区池田町(元一橋小学校) Uh 火山灰



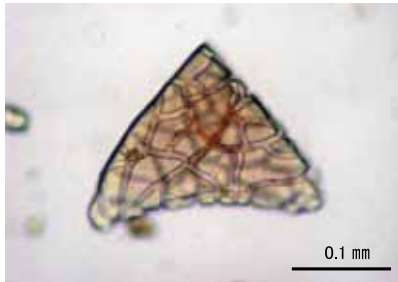
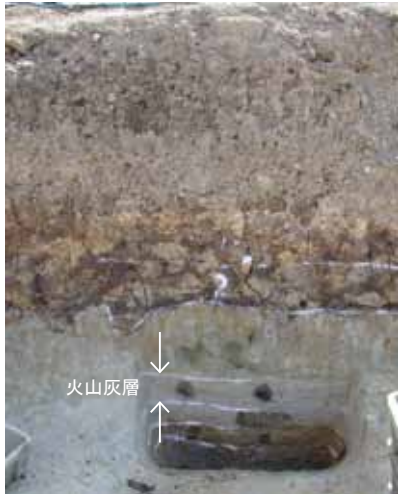
4 中京区西ノ京星池町 Uh 火山灰

はじめに 活火山のない近畿地方では火山灰は身近ではありませんが、京都市街を囲む東山・西山に行けば、斜面の露頭に白い微砂層の約百万年前の古い火山灰層を見ることができます。市街地ではそんな古い層は京都盆地の地下200mの基盤層近くにしかありません。

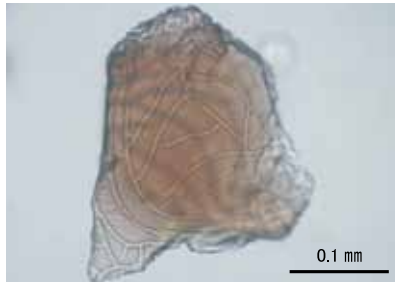
しかし、市内の遺跡調査で地面を掘削すると浅い所で地表下数10cm、深くても3mまでで火山灰層が見つかることがあります。多くは深い井戸の断面・深いゴミ穴の断面・壁土用と考えられる中近世の土取穴の底部で見つかります。土取穴の底部で見つかるのは、黄色系の粘土層を目当てに掘り進み白い火山灰層が出た所で掘削を止めているからです。

火山灰層が市内でよく見つかる場所は岡崎周辺、千本通より西で五条通より北、東山の裾部です。多くは当時低地か谷部の湿地部分に堆積し遺存したと考えられます。地層中の火山灰層を遺構写真の中で矢印で示しました。

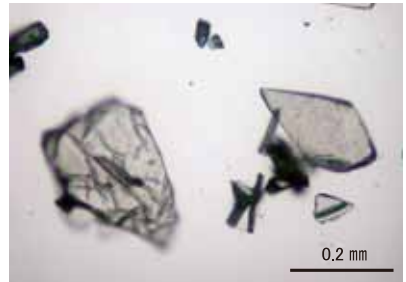
調査成果 遺跡調査で層として見つかる火山灰には大きく二種類あります。2万9千年～3万年前の九州地方鹿児島湾奥全体をカルデラとする「始良 Tn 火山灰」(AT 火山灰)、約2万年前の中国地方鳥取県西部の大山の「上のホーキ火山灰」(Uh 火山灰)です。



5 中京区西ノ京車坂町 AT 火山灰



6 中京区聚楽廻松下町 AT 火山灰



7 東山区轆轤町(元六原小学校) AT 火山灰

その他に、7,300年前の九州南端から南約40kmにある海底火山カルデラの「鬼界アカホヤ火山灰」(K-Ah火山灰)は、一部に集積したのみが見られるだけです。

これらの大噴火で吹き上げられた火山灰は、上空1万m付近の偏西風に乗ってはるばる京都まで運ばれ、AT火山灰が約15cm厚、Uh火山灰が断続的に数cm厚で堆積しています。

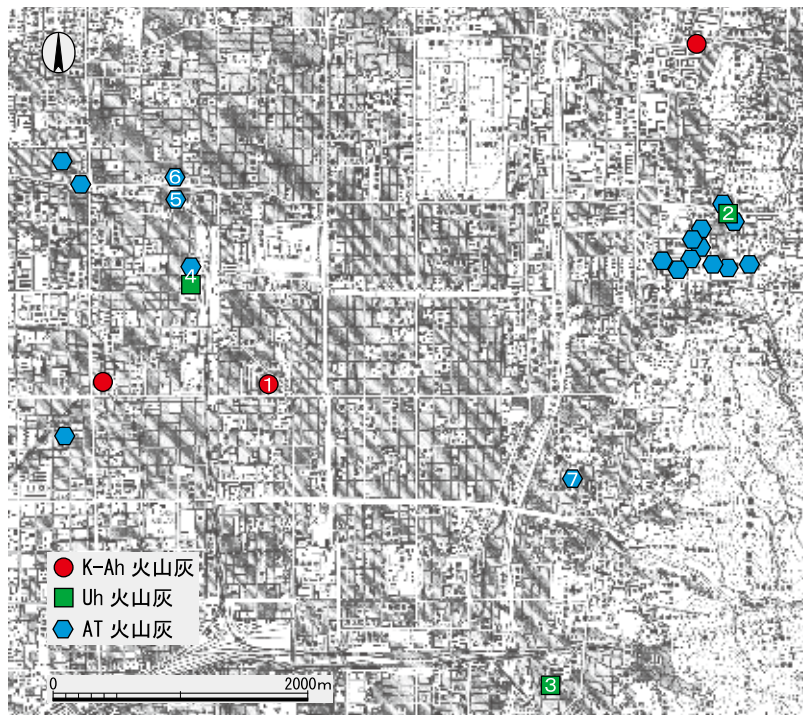
火山灰の主体は透明な火山ガラスで、少し鉱物が混じっています。K-Ah火山灰は有色の火山ガラスが多く、Uh火山灰には鉱物が多いこと、始良Tn火山灰は網目の入った火山ガラスに特徴があります。これらの火山灰層は火山ガラス・鉱物の分析や湖底の堆積層から年代がはっきりしているため「鍵層」と呼ばれます。

火山灰の堆積状況を見てみると、岡崎あたりでは泥炭層の上にAT火

山灰が約15cm厚で堆積し、その上に約1~2mのいわゆる白川砂が被覆し、その上の粘質土層の中にUh火山灰が確認できます。二条駅周辺でも、AT火山灰の上に約2mの粘土と砂礫層の層があり、Uh火山灰はその上にあります。

京都に縁の薄いと思われる火山灰ですが、このガラスの粉は、まるで時代を超えて遠くから届けられた手紙のように、遺跡の中から色々なことを教えてくれる「たかが火山灰、されど火山灰」です。

(竜子正彦)



火山灰の検出地点 (地図中番号は写真番号と同じ)